

足立区のイメージアップは西部（29区）改革から。

01 日暮里・舎人ライナーの発想転換

鉄道過疎地域に新交通システムが開通。これは地域の人々の悲願であり多くの方々の夢を叶えた快挙だと言えます。

ところが、ラッシュ時の混雑が激増し、途中乗車が不可能。増車やダイヤ改正等で対応していますが、◎バスの増便◎都民以外の乗車税導入◎埼玉県民のふるさと納税◎路線を毛長川・綾瀬川・綾瀬駅へ延伸等を提案。

02 教育水準を上げ文教都市へ

西日暮里駅前には開成学園中・高校があります。日暮里・舎人ライナー沿線の小学校に開成モデル学級を併設し中学受験に対応。また、偏差値教育とは別に個性を生かしたカリキュラムを導入し、文教都市を目指します。

03 陸上競技場・野球場・文化会館整備

国際大会が開催できる陸上競技場（サッカー場）へ規格変更。プロ野球が見られる野球場。さらに、フルオーケストラ演奏が聴ける文化会館（コンサートホール）を実現します。

04 安全・安心に向けた舎人公園の利用

台風・地震・富士山の噴火など、万一の災害対応に舎人公園は大きな力を発揮します。防災備蓄・避難所・簡易発電などの体制を点検し、安全・安心度を高めます。真夏や真冬の避難所・発災時仮設病院設置や北足立市場の対応シュミレーションを進めます。

05 超高齢社会への対応

5人に1人が後期高齢者となる2025年を迎え、足立区西部を「置き去りにしないまち宣言」を掲げ、訪問介護を徹底し、スマホやタブレットの不便性解消。75歳以上全員にポケベル型発信器（小学生の防犯ブザーのようなもの）を身につけ、いざという時に備えます。



榎本は突撃します

東京都足立区
ADACHI WARD

国政レベルの話になりますが、衆議院議員選挙の選挙区割りにより地域の分断がささやかれています。国・都・区の構図の中で大きなプロジェクトほど国との関わりが重要になります。衆議院議員には地域代表の側面があることも認識しなければなりません。

次に問題になるのが都政への影響力です。まさに「全力で足立区西部を主張する」候補者を都政へ送り込むことが大切なのです。

客観的に見て足立区のイメージは23区の中でも比較的低い評価だと言われています。「住みたいまち」にするには、開発の可能性を秘めた足立区西部の改革から進めていかなければなりません。都政と連動させるため、自民党区議会議員の仲間とともに、皆さまの大きな力を背に榎本は突撃します。

榎本ふみこの情報発信はこちらから→



都議選の投票は

榎本ふみこへ！

